三重県埋蔵文化財調査報告166－1

平成９年度土地改良事業にかかる埋蔵文化財発掘調査報告

北条畑田遺跡・安知本上田遺跡
曽原堀之内遺跡・花ノ木遺跡

１９９８・３

三重県埋蔵文化財センター

序

埋蔵文化財は、祖先が残した貴重な文化遺産であり、現代に生きる私たちの責務としてこれを積極的に保護し後世に伝えていくとともに、更なる文化の向上のための礎とすべきものであります。しかし、一方ではわたしたちの生活を豊かなものとするため、各種の公共事業も必要となってまいります。そのような公共事業に伴って破壊され現状保存が困難であると考えられる遺跡については、発掘調査を実施し記録の保存を図ってきているところであります。

ここに報告いたしますのは、平成９年度土地改良事業及び農道整備事業に伴って発掘調査を実施したものであります。この発掘調査成果が、より多くの方面で活用されることを切望するものであります。

なお、文化財保護法の精神を尊重され、協議から発掘調査に至るまで多大のご理解とご協力をいただいた県農林水産部の各関係機関の方々、また、現地での調査にあたってご助力をいただいた各市町村教育委員会をはじめ、地元の方々には、ここに心からのお礼を申し上げます。

平成10年(1998) 3 月

三重県埋蔵文化財センター
所 長 奥 村 敏 夫

例　　言

1　本書は、下記の遺跡の発掘調査報告書である。

北条畑田遺跡　　鈴鹿市東庄内町北条　（平成９年度県営畜産経営環境整備事業「鈴亀地区」）
安知本上田遺跡　亀山市安知本町字上田（平成９年度県営畜産経営環境整備事業「鈴亀地区」）
曽原堀之内遺跡　一志郡三雲町曽原　　（平成９年度広域営農団地農道整備事業「中勢３期」）
花ノ木遺跡　　多気郡多気町牧　　（平成９年度県営畜産経営環境整備事業「多気勢和」）

2　調査にかかる費用は、その一部を国庫補助金の交付を受け三重県教育委員会が、他を三重県農林水産部と地元市町村が負担した。

3　調査および整理の体制は以下のとおりである。

調　査　主　体　　三重県教育委員会
調　査　担　当　　三重県埋蔵文化財センター　調査第一課
整　理　担　当　　三重県埋蔵文化財センター　調査第一課・管理指導課

4　調査にあたっては、三重県農林水産部農村振興課、同部農芸畜産課、各農林水産事務所、各市町村教育委員会、各土地改良区および地元の方々に協力をいただいた。

5　各遺跡の報文執筆は、基本的に現地調査担当者があたり、その名を目次に明記した。

6　本書で示す方位はすべて磁北を用いた。なお、真北方位は、北条畑田遺跡において東偏６度30分、安知本上田遺跡において東偏６度40分、曽原堀之内遺跡・花ノ木遺跡において東偏６度20分（国土地理院）である。

7　本文で用いた遺構表示略記号は、下記の通りである。

ＳＥ：井戸　　ＳＫ：土坑　　ＳＤ：溝　　Pit：柱穴、小穴

8　本書で報告した記録及び出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。

9　スキャニングによるデーター取り込みのため若干のひずみが生じています。
各図の縮尺率は、スケールバーを参照ください。

本文目次

Ⅰ　鈴鹿市東庄内町北条　北条畑田遺跡 ……（坂倉一光・城　吉基）1
Ⅱ　亀山市安知本町字上田　安知本上田遺跡 ……（坂倉一光・城　吉基）6
Ⅲ　一志郡三雲町曽原　曽原堀之内遺跡 ……（清水正明）11
Ⅳ　多気郡多気町牧　花ノ木遺跡 ……（清水正明）13

図版目次

Ⅰ　調査区全景
図版１　北条畑田遺跡…… 10　図版２　安知本上田遺跡…… 10

挿図目次

Ⅰ　北条畑田遺跡
第１図　遺跡位置図 …… 1
第２図　遺跡地形図 …… 2
第３図　調査区位置図 …… 2
第４図　遺構平面図・土層断面図
及び井戸実測図 …… 3
第５図　出土遺物実測図 …… 5

Ⅱ　安知本上田遺跡
第６図　遺跡位置図 …… 6
第７図　調査区位置図 …… 6
第８図　遺構平面図・土層断面図 …… 7
第９図　出土遺物実測図 …… 9

Ⅲ　曽原堀之内遺跡
第10図　遺跡位置図 ……11
第11図　Ａ地区遺構平面図……12
第12図　Ｂ地区平面略図……12
第13図　土層略図 ……12
第14図　出土遺物実測図 ……12

Ⅲ　花ノ木遺跡
第15図　遺跡位置図 ……13
第16図　調査区位置図 ……14
第17図　遺構平面図 ……14
第18図　土層略図 ……14
第19図　出土遺物実測図 ……14

表 目 次

Ⅰ　北条畑田遺跡
第１表　出土遺物観察表 …… 5
Ⅱ　安知本上田遺跡
第２表　出土遺物観察表 …… 9
Ⅲ　曽原堀之内遺跡
第３表　出土遺物観察表 ……12
Ⅳ　花ノ木遺跡
第４表　出土遺物観察表 ……14

Ⅰ　鈴鹿市東庄内町北条　北条畑田遺跡

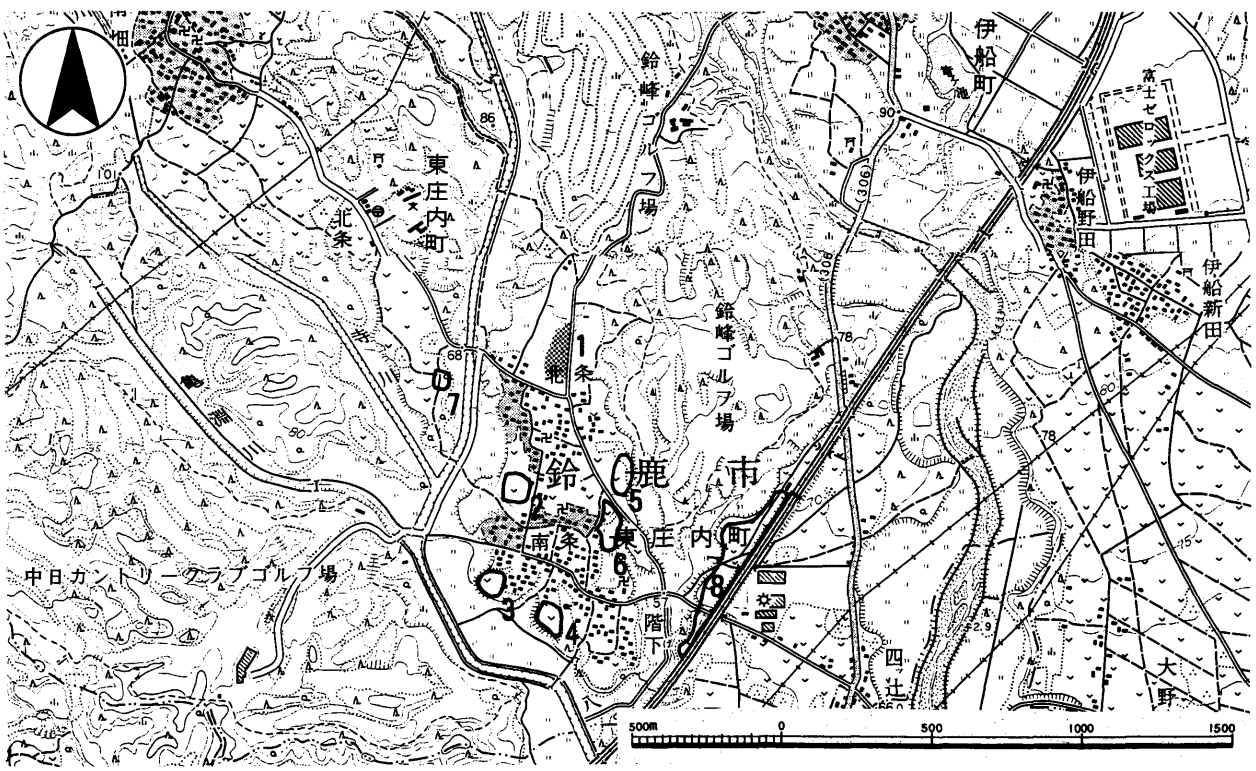
1　調査に至る経過

今回の発掘調査は、平成９年度県営畜産経営環境整備事業（鈴亀地区）に伴う調査である。平成９年１月に行った試掘調査の結果、事業地内に5,500㎡にわたり遺跡が広がっていることが判明した。そのうち、事業により削平をうける350㎡について本調査を行った。調査期間は、平成９年５月28日～６月27日である。

2　位置と環境

北条畑田遺跡(1)は、鈴鹿市の北西部、東庄内町にある。東庄内町は徳原台地上にあり、標高70m～60mと北から南に向かいゆるやかに傾斜している。当遺跡は御幣川と八島川に挟まれたところに位置し、西側には鈴鹿山脈の一峰「野登山」を仰ぎ見ることができる。

以下、周辺の遺跡について中世を中心にして述べる。当遺跡の南側には東庄内町の現在の集落が存在するが、その現在の集落と重なるようにいくつかの中世の遺跡がある。南条Ａ遺跡(2)・南条Ｂ遺跡(3)・南条Ｃ遺跡(4)では、山茶椀片の散布が見られる。北ノ垣内遺跡(5)・北ノ垣内南遺跡(6)でも、山茶椀片の散布が見られる。当遺跡の西側には、室町時代の寺院跡として吉尾道場跡(7)がある。東庄内Ｂ遺跡(8)は、縄文時代～弥生時代の遺跡として著名であるが、中世の集落跡も確認されている。[1]



第１図　遺跡位置図（1:25,000）国土地理院「伊船」「亀山」1:25,000より

3　層序と遺構

土層の基本層序は、上から第１層：耕作土、第２層：床土、第３層：暗黄褐灰色砂質シルト、第４層：黄灰色シルトであり、遺構検出面は第４層上面である。調査区は、３ｍ×100ｍの南北に細長いものであり、北から南に向けて緩やかに傾斜する。

調査の結果、井戸１基・土坑４基・溝９条・ピットを検出した。

ＳＥ12　調査区北端にある径90cm、深さ1mの素掘りの井戸と思われる。出土遺物はなかった。埋土は他の遺構埋土と同じく第３層（暗黄褐灰色砂質シルト）及び第８層（暗褐灰色砂質シルト）であった。

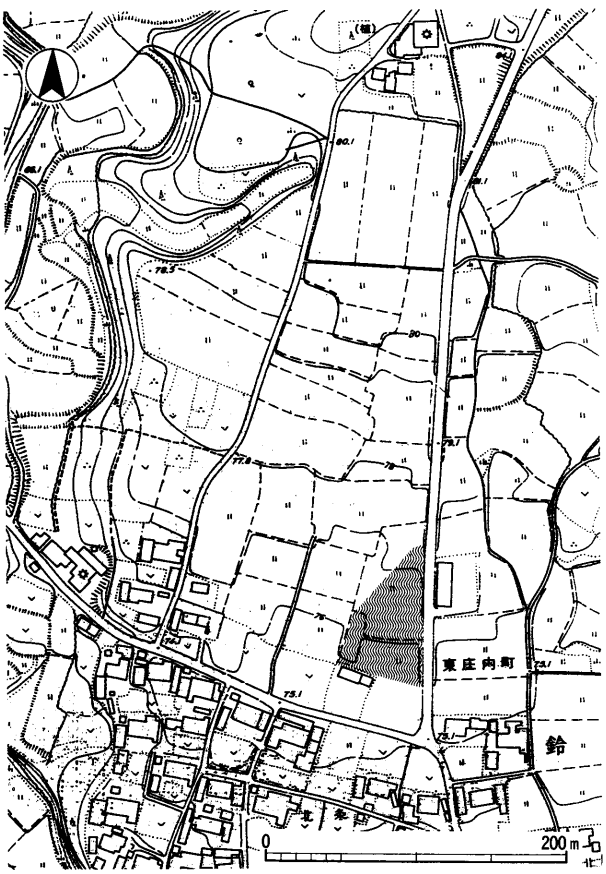
ＳＫ11　調査区北部にある土坑である。西側が調査区外にのびるため全体像は不明である。深さは最深部で検出面より30cm程である。完形の山茶椀(1)を含め数点の山茶椀、土師器小皿等が出土した。

ＳＫ13　調査区北部にある土坑である。ほとんどが調査区外となるため全体像は不明である。山皿(5)が出土した。

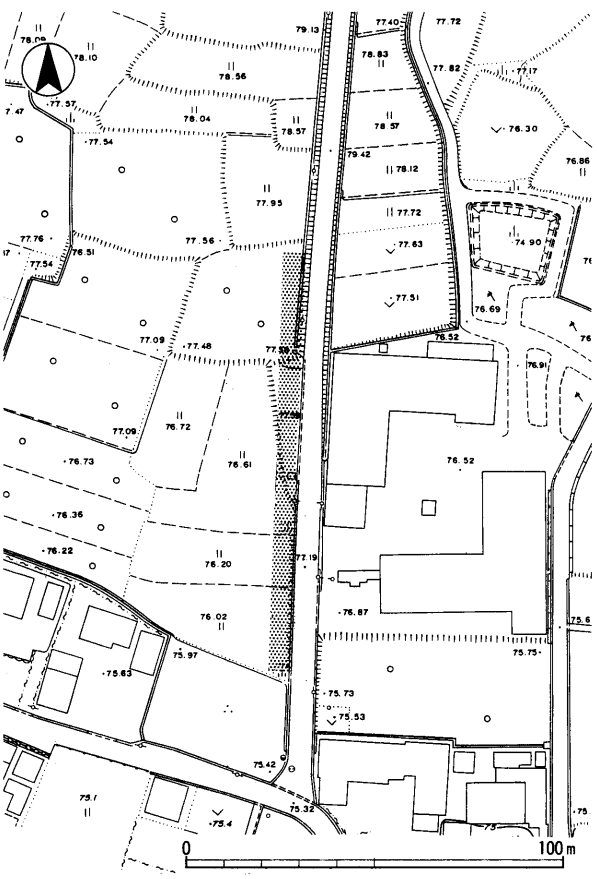
ＳＤ１・ＳＤ２・ＳＤ３　調査区中央部やや北よりの重なり合う３条の溝である。断面観察により古い順にＳＤ２・ＳＤ３・ＳＤ１となる。ＳＤ２・ＳＤ３からは山茶椀片が出土した。

ＳＤ４・ＳＤ５・ＳＤ６・ＳＤ７　調査区中央部を平行に流れる４条の溝である。すべての溝からは、ほぼ同時期の山茶椀片が出土した。

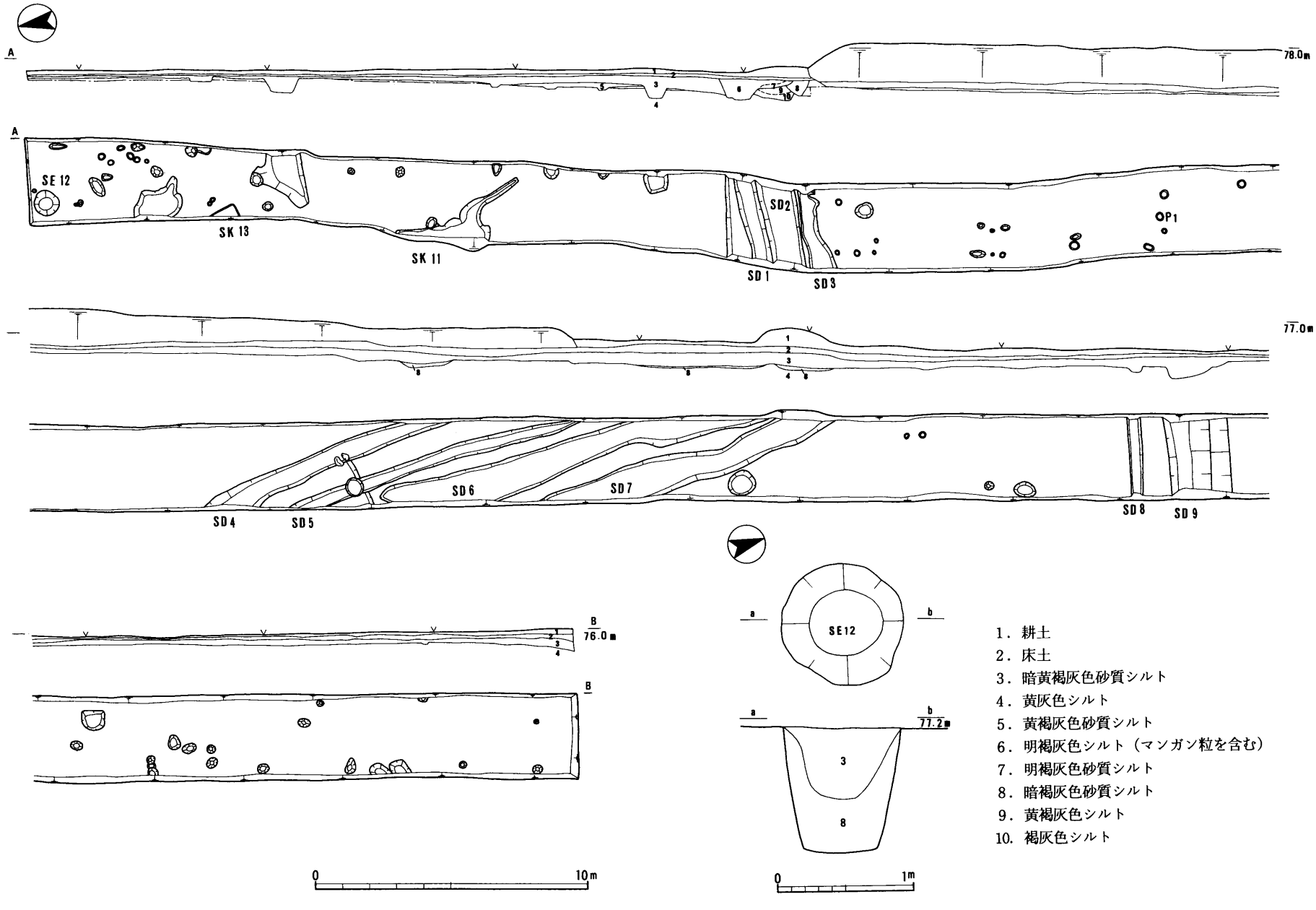
ＳＤ９　調査区中央部やや南よりの溝である。ＳＤ９の埋土からは山茶椀が出土した。



第２図　遺跡地形図（1:5,000）



第３図　調査区位置図（1:2,000）



第４図　遺構平面図（1:200）・土層断面図（1:200）及びＳＥ12実測図（1:40）

4　遺　　物

出土遺物は、山茶椀・山皿など12世紀前期～中期の遺物がほとんどである。遺物量は、整理箱に換算して４箱である。この遺物のほとんどは細片であるが、山茶椀・山皿各１点ずつの完形品もある。

以下、遺構別に出土遺物を記述するが、詳細は観察表を参照されたい。

(1)　ＳＫ11出土遺物

山茶椀(1)口縁端部がやや厚く、見込み中央部と体部内面との接点が浅く凹み、体部は直線的になっており、藤澤編年[2]（以下、山茶椀・山皿の編年及び類型名は藤澤良祐氏のものを引用する）の第６～７型式に比定でき、12世紀前期～中期のものである。

山茶碗(2)・(3)２は腰部にやや丸味を残しており、３は見込み中央部と体部内面との接点が浅く凹むことから第６型式に比定できる。

土師器小皿(4)上記山茶碗の時代に対応する時期のものであると考えられる。

(2)　ＳＫ13出土遺物

山皿(5)底部から体部にかけ素直に立ち上がっており、第６型式に比定できる。

(3)　ＳＤ３出土遺物

山茶椀(6)見込み中央部と体部内面との接点が浅く凹むことから、第６型式に比定できる。

(4)　ＳＤ５出土遺物

山茶椀(7)体部が直線的になっており６～７型式に比定できる。

山茶椀(8)底部のみであるが見込み中央部と体部内面との接点が浅く凹み、第６型式に比定できる。

(5)　ＳＤ９出土遺物

山茶椀(9)腰部に張りがなく直線的で、内面の底部と体部の境の稜が明瞭であり、第７型式であろう。

(6)　ピット１出土遺物

山茶椀(10)見込み中央部と体部内面との接点が浅く凹み、第６型式に比定できる。

(7)　包含層出土遺物

白磁椀(11)12世紀末～13世紀のものであると考えられる。

5　結　　語

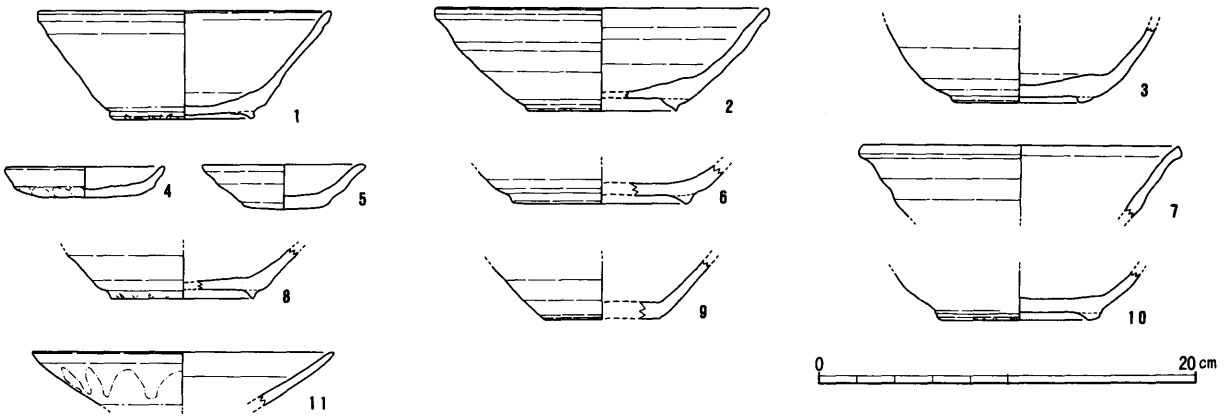
調査区が幅３ｍと狭く建物跡は検出しなかったが、今回の調査では、井戸・土坑・溝・ピットを検出し山茶椀・山皿が出土した。したがって、当地周辺は中世の集落跡であると考えられよう。

総出土遺物の中で、山茶椀が１点の完形品も含め狭い調査区の中で10数点出土したのに対して、煮たき等に使用する土師器の鍋等の出土は５cm以下の小片ばかり数点程しか確認できなかったのが特徴的である。このことが、単なる偶然であるのか、当遺跡の性格を考える上で意味を持つものであるかは、今後のこの地域の調査に期待される。

註

① 小玉道明・山澤義貴・谷本鋭次「東庄内Ｂ遺跡」『東名阪道路埋蔵文化財調査報告』日本道路公団名古屋支社　三重県教育委員会　1970

② 藤澤良祐　「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要第３号』三重県埋蔵文化財センター　1994



第5図　遺物実測図（1:4）

番号	登録番号	器種	遺構 出土位置	法量（cm） 口径	底径	器高	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	003-01	陶器 山茶椀	b－6 SK11	15.3	7.7	5.8	外：ロクロナデ、高台貼付後ナデ、底部糸切痕、籾殻痕 内：ロクロナデ	やや密 ～2.0mmの砂粒含む	良	灰白	完存	
2	003-04	陶器 山茶椀	b－6 SK11	17.4	7.8	5.5	外：ロクロナデ、高台貼付後ナデ、底部糸切痕、籾殻痕 内：ロクロナデ、ナデ	やや粗 ～3.0mmの砂粒含む	良	灰白	口:1/3 底:1/3	
3	004-01	陶器 山茶椀	b－6 SK11	－	7.3	－	外：ロクロナデ、高台貼付後ナデ、底部糸切痕、籾殻痕 内：ロクロナデ	やや粗 ～2.0mmの砂粒含む	良	灰白	底:3/4	
4	004-04	土師器皿	b－6 SK11	8.3	－	1.6	外：ヨコナデ、オサエ 内：ナデ	やや粗 ～3.0mmnの砂粒含む	並	淡橙	1/3	
5	001-04	陶器 山皿	b－4 SK13	8.5	4.2	2.3	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	やや密 ～4.0mmの砂粒含む	良	灰白	ほぼ完存	
6	002-04	陶器 山茶椀	b－10 SD3	－	9.0	－	外：ロクロナデ、高台貼付 内：ロクロナデ	密 ～1.0mmの砂粒含む	良	黄灰	底：1/6	
7	002-06	陶器 山茶椀	b－16 SD5	16.8	－	－	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	やや粗 ～5.0mmの砂粒含む	良	灰白	口:1/5	
8	002-02	陶器 山茶椀	b－16 SD5	－	7.4	－	外：ロクロナデ、高台貼付、底部糸切痕、籾殻痕 内：ロクロナデ	やや密 ～2.0mmの砂粒含む	良	灰白	底:1/5	
9	002-05	陶器 山茶椀	b－25 SD9	－	6.1	－	外：ロクロナデ、底部糸切痕、 内：ロクロナデ	やや密 ～6.0mmの砂粒含む	良	灰白	底：1/4	
10	002-01	陶器 山茶椀	b－12 pit 1	－	7.2	－	外：ロクロナデ、高台貼付後ナデ、底部糸切痕、籾殻痕 内：ロクロナデ	やや密 ～3.0mmの砂粒含む	良	灰白	底：1/2	
11	002-07	磁器 白磁皿	b－6 包含層	15.8	－	－	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	良	灰白	口：1/8	

第1表　遺物観察表

II　亀山市安知本町字上田　安知本上田遺跡

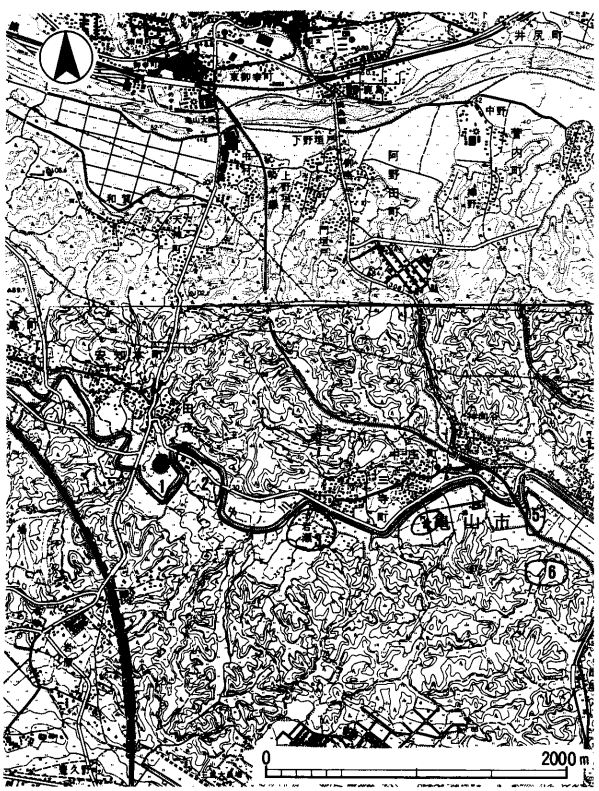
1　調査に至る経過

今回の発掘調査は、平成９年度県営畜産経営環境整備事業（鈴亀地区）に伴う調査である。平成９年１月に行った試掘調査の結果、事業地内に5,000㎡にわたり遺跡が広がっていることが判明した。そのうち、事業により削平をうける600㎡について本調査を行った。調査期間は、平成９年５月６日～27日の21日間である。

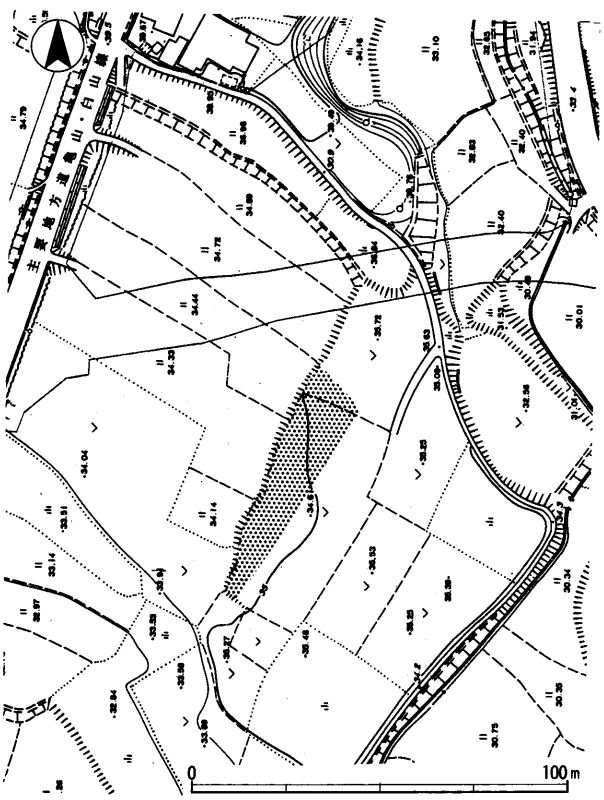
2　位置と環境

安知本上田遺跡(1)は、行政上は亀山市安知本町字上田に位置する。亀山市は、三重県中北部に位置する。市内には、北から安楽川・椋川・鈴鹿川・中ノ川が流れ、当遺跡は、中ノ川中流の台地上に位置する。標高は35m前後である。ここでは、中ノ川流域における周辺の遺跡について述べる。中ノ川の対岸にあたる田茂遺跡(2)では、1978年に三重大学歴史研究会によって試掘調査が行われ、円面硯を始めとして奈良時代～平安時代の遺物が出土している。[1]

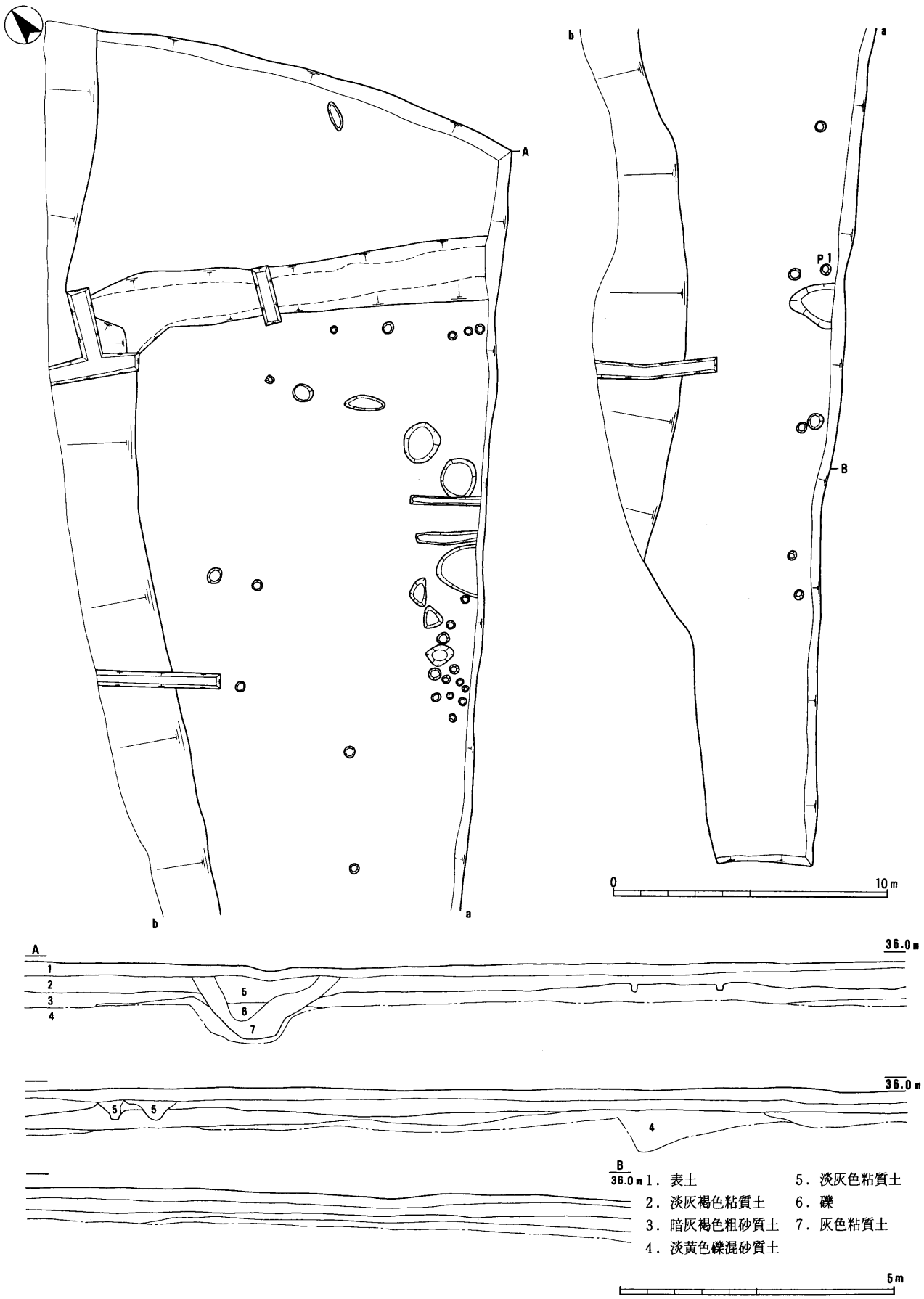
さらに、下流には、中ノ川に沿っていくつかの遺跡が存在する。岩瀬遺跡(3)では、須恵器・土師器・山茶椀の散布が見られる。於於奈気神社遺跡(4)では、須恵器・土師器・染め付け等の散布がみられる。下ノ庄遺跡(5)には、須恵器・山茶椀の散布がみられ、下ノ庄館跡(6)では、土塁・井戸が確認されている。[2]



第６図　遺跡位置図（1:50,000）
国土地理院「亀山」「椋本」1:25,000より



第７図　調査区位置図（1:2,000）



第8図　遺構平面図（1:200）及び土層断面図（1:100）

3　層序と遺構

土層の基本層序は、上から第1層：表土、第2層：淡灰褐色粘質土、第3層：暗灰褐色粗砂質土、第4層：淡黄色礫混砂質土であり、遺構検出面は第3層上面である。調査区西端は、石で固められた畦であり、元の地形は西へ傾斜する斜面であると考えられる。北端の幅2mの溝は、底に多数の瓦礫が確認され最近埋められたものであると考えられる。遺構としては、土坑・ピットを検出した。ピットについては建物としてまとまるものは無いが、調査区中央部東壁部分に集中して存在しており、この部分から東にむけて住居跡がある可能性が考えられる。ピット内及びその周辺から出土した遺物は山茶椀・土師器鍋の小片が大部分を占めており、中世の遺構であると考えられる。

4　遺　　物

出土遺物は、整理箱に換算して4箱であり、包含層出土の遺物がほとんどである。以下、時代別に出土遺物を記述するが詳細は観察表を参照されたい。

(1)　縄文時代の遺物

縄文土器(1)張り付けの突帯があり、胎土には繊維痕が含まれている。

(2)　平安時代の遺物

土師器甕(2) 9世紀始め頃のものであると思われる。

(3)　鎌倉時代～室町時代の遺物

片口鉢(3)ピット1からの出土である。

山茶碗(4・5) 4・5ともに腰部に張りがなく直線的なもので、藤澤良祐氏の山茶碗編年[3]による第7型式に比定できよう。4・5ともに底部外面に墨書が見られる。

土師器鍋(6)口縁部が長く発達した形態を呈し、やや内彎する形状を示すもので、伊藤裕偉氏の南伊勢系土師器の分類[4]による第3段階に比定できよう。

5　結　　語

今回の調査区は、遺構としてピット・土坑を検出し、遺物として主に山茶椀・土師器鍋が出土し、中世の人々の生活の痕跡が確認できた。

他に、一点ではあるが縄文土器片が出土している。当地は中ノ川中流の舌状台地上の最上部に位置しており、他地域からの流れ込みとは考え難く、今後この地域の調査の際には、考慮に入れるべき資料となると考えられる。

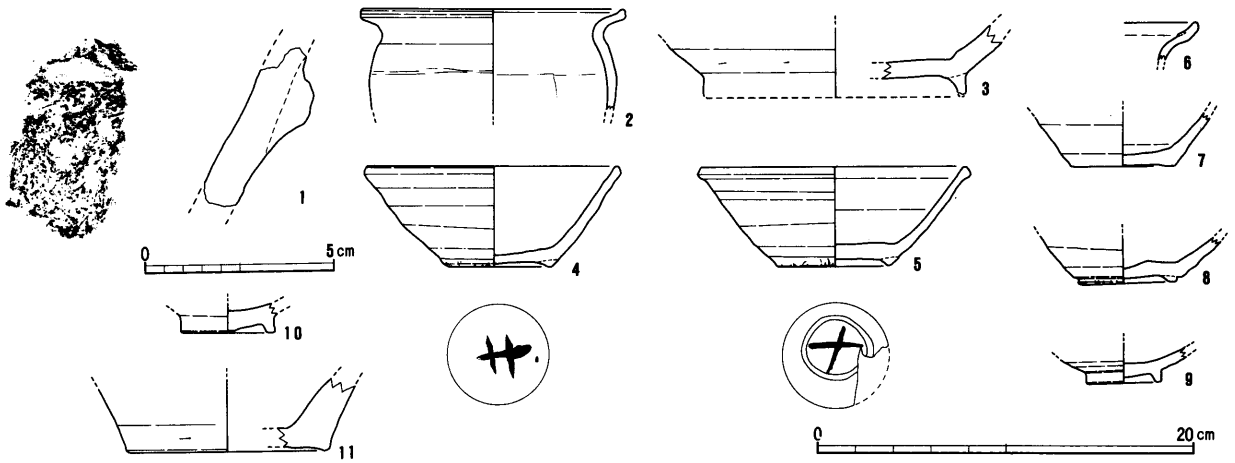
註

① 三重大学歴史研究会　「田茂遺跡調査概要」亀山市　1978

② 「亀山市の文化財」亀山市教育委員会　1987

③ 藤澤良祐「山茶椀研究の現状と課題」『研究紀要第3号』三重県埋蔵文化財センター　1994

④ 伊藤裕偉『中世南伊勢系の土師器に関する一試論』『Mie History』1三重歴史文化研究会　1990



第９図　遺物実測図（１は1:2,2～11は1:4）

番号	登録番号	器種	遺構出土位置	法量（cm）口径	底径	器高	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	003-06	縄文土器	包含層	－	－	－	外：ナデ 内：ナデ	やや粗 ～3mm小石含む	並	にぶい赤褐色		繊維含む
2	003-03	土師器 甕	f －5 包含層	14.0	－	－	外：横ナデ、ナデ 内：横ナデ、工具ナデ	密	並	浅黄橙	口:1/8	
3	003-01	陶器 片口鉢	f－13 pit 1	－	14.0	－	外：ロクロケズリ、高台貼付後ナデ 内：ロクロナデ	やや粗 ～7mmnの小石含む	並	灰白	底：1/7	
4	001-01	陶器 山茶椀	g－8 包含層	13.2	5.6	5.4	外：ロクロナデ、高台貼付後ナデ、底部糸切痕、籾殻痕 内：ロクロナデ	やや密 ～3mmの小石含む	良	灰白	口：3/4 底：完存	墨書あり
5	001-02	陶器 山茶椀	g－8 包含層	14.1	5.8	5.3	外：ロクロナデ、高台貼付後ナデ、底部糸切痕、籾殻痕 内：ロクロナデ	粗 ～5mmの小石含む	良	灰白	口:1/2 底:3/4	墨書あり
6	003-04	土師器 鍋	f－8 包含層	－	－	－	外：ナデ 内：ナデ	やや密	並	浅黄橙		外面スス付着
7	002-01	陶器 山茶椀	d －9 包含層	－	5.6	－	外：ロクロナデ、底部糸切痕、 内：ロクロナデ、ナデ	やや粗 ～5mmの小石含む	並	灰白	底:2/3	
8	002-03	陶器 山茶椀	f－7 包含層	－	5.2	－	外：ロクロナデ、高台貼付後ナデ、底部糸切痕、籾殻痕 内：ロクロナデ、ナデ	やや粗 ～5mmの小石含む	並	浅黄橙	底:1/4	
9	002-05	陶器 天目茶碗	d－4 包含層	－	4.0	－	外：ロクロナデ、削りだし高台、ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉	やや密	並	にぶい赤褐色	底:1/2	
10	002-07	磁器 加工円盤	e－4 包含層	－	5.0	－	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉	やや密	並	灰白	底:完存	
11	003-02	陶器 壺	d－9 包含層	－	10.6	－	外：ナデ、ケズリ、ナデ 内：ナデ	やや粗 ～3mmの小石含む	並	灰黄	底:1/4	

第２表　遺物観察表

北条畑田遺跡調査区全景（北から）

安知本上田遺跡調査区全景（南から）

V　一志郡三雲町曽原　曽原堀之内遺跡

1　調査に至る契機と経過

平成９年度広域営農団地農道整備事業（中勢３期地区）に伴って分布調査・範囲確認調査を実施した結果、遺跡範囲は事業地内の200㎡であることが判明し、本調査を実施した。調査期間は、10月６～９日の４日間である。

2　位置と環境

曽原堀之内遺跡（１）は、碧川と三渡川に挟まれた沖積平野上にあり、標高は１m程である。

当地は、行政的には一志郡三雲町大字曽原字堀之内に所在する。

当地周辺には、西方の丘陵上に弥生時代前期末の権現前遺跡（２）や西山古墳（３）、すぐ東方に寺前貝塚（４）、三渡川を挟んだ南方には弥生時代前期～中期の土坑・溝、古墳時代の周溝、歴史時代の井戸などが見つかっている中ノ庄遺跡（５）がある。

調査区の現況は、昭和40年頃ほ場整備が行われた畑と水田である。調査区幅は、２～３m程であるが、道路又は側溝の工事の時であろう幅0.5m程の撹乱を、調査区全域に渡って受けていた。

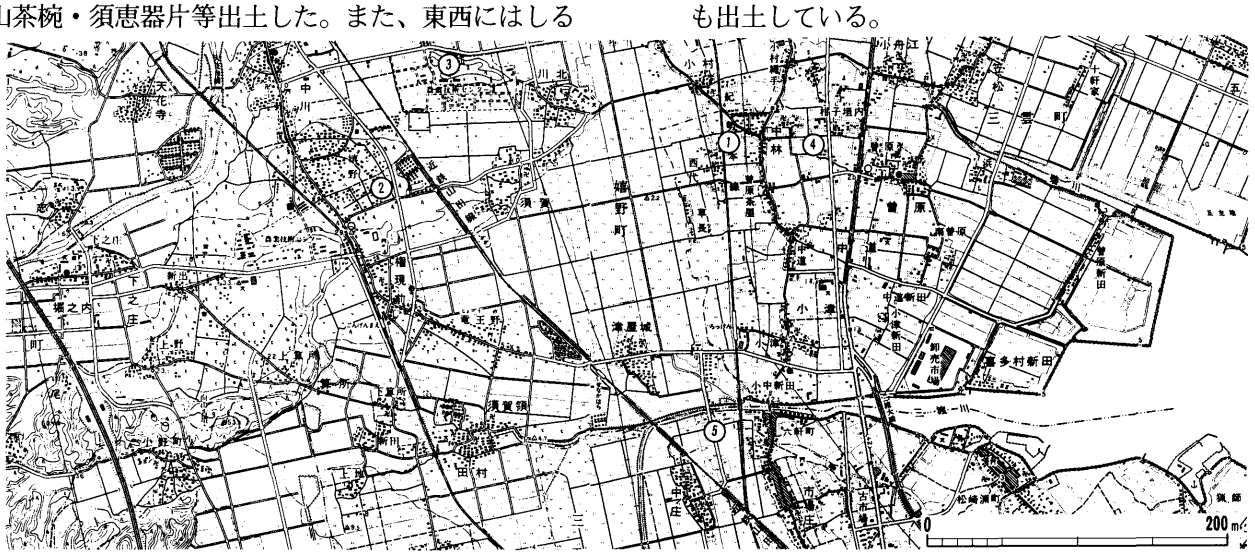
3　層　　序

基本的な層序は、上から耕作土・褐色細砂（包含層）・淡黄色砂（上面が遺構検出面）である。遺構検出面の標高が0.6m程で、包含層掘削中でも水が地表面を覆ってくるほどであった。

4　遺構・遺物

Ａ地区から柱穴と思われるピットを十数個検出したが、調査区の幅が狭く建物跡と断定するまでには至らなかった。ピット埋土からは、平安時代から鎌倉時代にかけての土師器甕や皿片・ロクロ土師器・山茶椀・須恵器片等出土した。また、東西にはしる浅い溝を３条検出し、その埋土からは、土師器鍋片が出土した。

Ａ地区・Ｂ地区の包含層からは、古墳時代の須恵器杯身や奈良時代の土師器甕や室町時代の土師器鍋も出土している。



第10図　遺跡位置図　1:50,000（国土地理院「松阪港・大仰」1:25,000より）

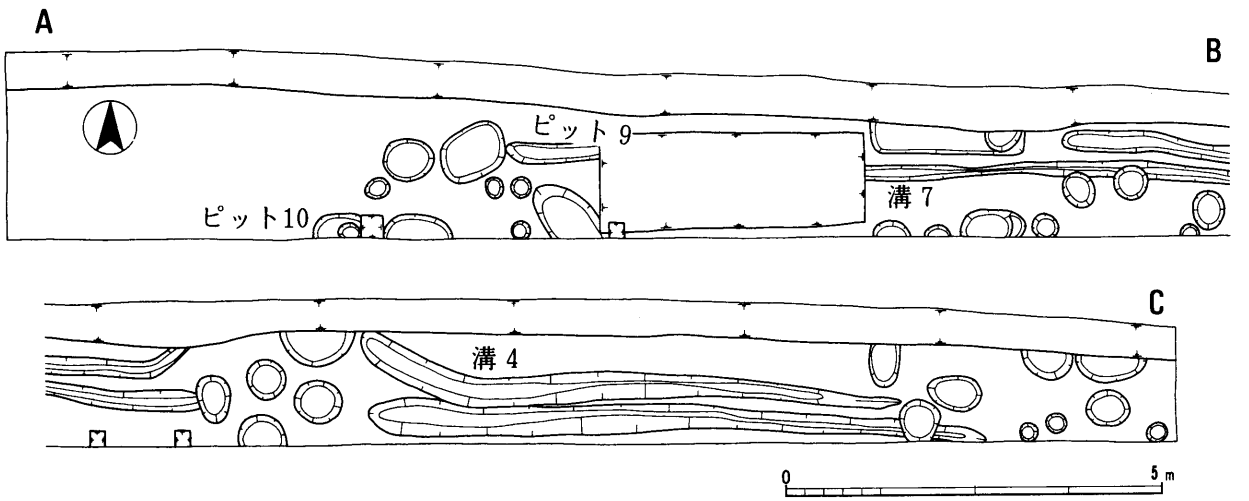
5　結　　語

A地区とB地区の標高差は0.15m程と極僅かな違いではあるが、A地区から東方向にやや微高地になっており、そこでは平安時代から鎌倉時代にかけての生活の痕跡が地面にしっかりと刻み込まれていた。

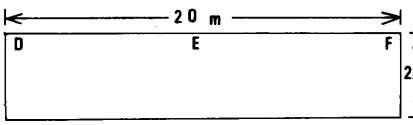
また、包含層からは古墳時代～室町時代までの遺物が出土していることから，周辺にこれらの時代の遺構がねむっている可能性を指摘できよう。

（参考文献）

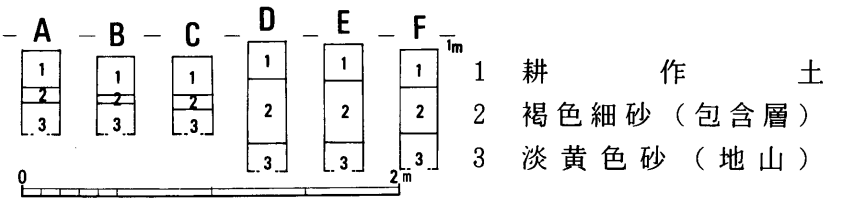
・谷本鋭次「中ノ庄遺跡発掘調査報告」三重県教育委員会1972



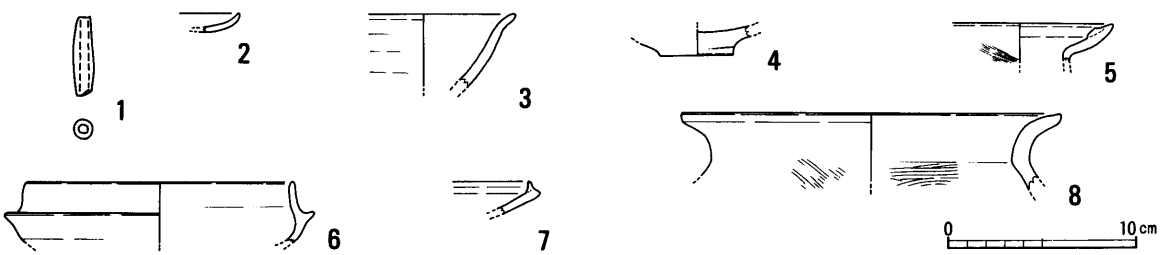
第11図　A地区遺構平面図（1:100）



第12図　B地区平面略図



第13図　土層略図（1:40）



第14図　遺物実測図（1:4）

番号	登録番号	器種	遺構 出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
1	001-01	土錘	溝 4	長さ：4.2cm	孔径：0.5cm、幅：1.1cm　重さ：4.37g		やや密	並	明褐色	ほぼ完存	
2	001-02	土師器皿	溝 7	－	1.0	内：ナデ?、外：ナデ?	やや粗	並	淡黄色	口縁部片	
3	001-05	山茶椀	ピット9	－	－	内：ロクロナデ、外：ロクロナデ	やや密	良	灰白色	口縁部片	
4	001-08	ロクロ土師器	ピット10	底径4.0	－	内：ナデ、外：ロクロナデ、底部：糸きり痕	やや粗	並	にぶい橙色	底部2/3	
5	001-07	土師器鍋	包含層	－	－	内：ロクロナデ、外：ロクロナデ　ロクロケズリ	やや粗	並	灰白色	口縁部片	
6	001-03	須恵器杯身	包含層	14.2	－	内：ロクロナデ、外：ロクロナデ	密	良	灰白色	1/10	
7	001-06	土師器鍋	包含層	－	－	内：ヨコナデ、外：ヨコナデ	やや粗	並	灰黄褐色	口縁部片	
8	001-04	土師器甕	包含層	20.2	－	口縁部内外：ナデ、体部内外：ハケ目	やや粗	並	淡黄色	口縁部1/10	

第3表　遺物観察表

Ⅳ 多気郡多気町牧 花ノ木遺跡

1 調査に至る契機と経過

平成９年度県営畜産経営環境整備事業（多気勢和地区）に伴って分布調査・範囲確認調査を実施した。範囲確認調査の結果、ピットの検出と共に弥生土器や中世の土師器・山茶椀が出土し、遺跡範囲は事業地内の5,000㎡にわたることが判明した。

また、調査区の西隣は伊勢自動車道建設に伴って昭和60年に発掘調査されており、弥生時代中期中葉の遺構・遺物を中心に縄文時代と平安時代～中世までの生活の痕跡が確認されている。

協議の結果、事業により削平を受ける水路部分の135㎡について本調査を実施した。調査期間は、８月21・22日の２日間である。

2 位置と環境

花ノ木遺跡(1)は、櫛田川中流部と北牧集落との間にある低位河岸段丘上にあり、標高は３８m程である。また、櫛田川河床との比高は７m程である。

当地は、行政的には多気郡多気町大字牧字花ノ木に所在する。当地周辺の低位河岸段丘上には、縄文時代後期の奥ホリ遺跡(2)や中世集落跡と推定される浅間山北遺跡(3)が立地しており、現在でも主として水田として利用されている。

今回の調査区は、以前は桑畑として利用され戦後は水田として利用されてきた。

3 層　　序

調査区の基本的な層序は、上から耕作土、褐色細砂、黄褐色細砂（上面は遺構検出面）である。しかし、西側部分の一部分では褐色細砂層と黄褐色細砂層の間に暗褐色細砂層が挟まる。

4 遺構・遺物

深さ10cm程のピットを９個検出し、ピット２の埋土からは中世の土師器皿片（４）が出土した。

また、桑の根痕跡らしき穴から、縄文土器片（１・２）や切目石錘（３）、中世の土師器皿片が出土した。

第15図　遺跡位置図（1:50,000）（国土地理院「松阪・国束山・横野・大河内」1:25,000より）

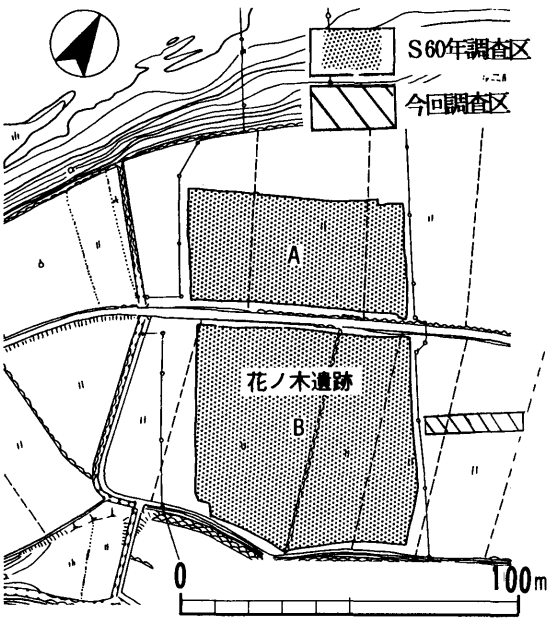
5 結　　語

今回の調査では、9個のピットを検出したが調査幅が狭いこともあり規則的な配列がみられず掘立柱建物としてまとまるものはない。

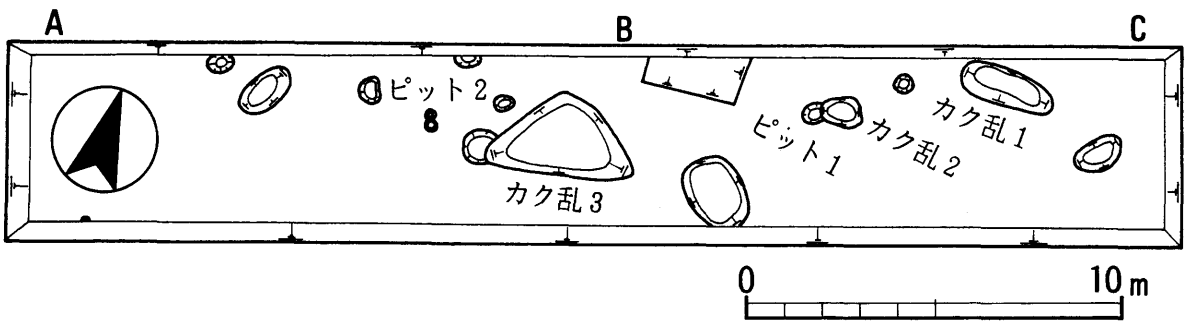
また、少量ではあるが縄文時代の遺物や中世の遺物が出土しており、同時代の生活痕跡が窺える。

（参考文献）

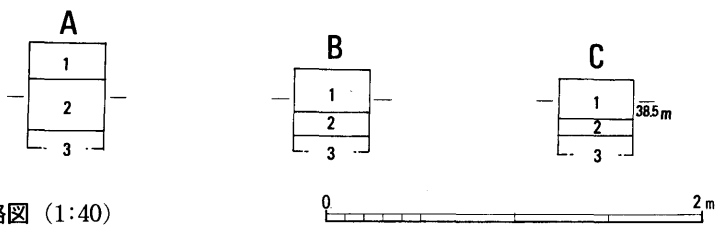
・田村陽一「花ノ木遺跡」『近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告第1分冊1』三重県教育委員会1989.3



第16図　調査区位置図（1:2,000）

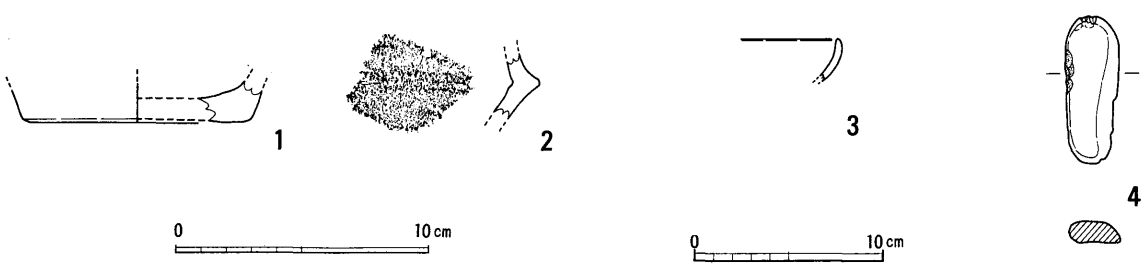


第17図　遺構平面図（1:200）



1　耕　作　土
2　褐　色　細　砂
3　黄　灰　色　細　砂

第18図　土層略図（1:40）



第19図　遺物実測図（縄文土器；1:3、他；1:4）

番号	登録番号	器種	遺構出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
1	001-01	縄文深鉢	カク乱3	底径8.5		表面剥離のため不明	やや粗含砂粒	並	橙色	底部1/5	
2	001-02	縄文深鉢	カク乱1	—	—	内：巻き貝による条痕、外：ナデ	やや粗含砂粒	並	にぶい褐色		
3	001-03	土師器皿	ピット2	—	—	内：ナデ、外：ナデ	やや密含微砂	並	淡黄色	口縁部片	
4	001-04	切目石錘	カク乱2	長さ：7.8cm　厚さ：1.2cm、幅：2.9cm　重さ：26.8g			—	—	—	ほぼ完存	

第4表　遺物観察表

報告書抄録

ふりがな	きたじょうはたけだいせき　あちもとうえだいせき　そはらほりのうちいせき　はなのきいせき
書名	北条畑田遺跡・安知本上田遺跡・曽原堀ノ内遺跡・花ノ木遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	１６６－１
編著者名	坂倉一光・城　吉基・清水正明
編集機関	三重県埋蔵文化財センター
所在地	〒５１５－０３２５　三重県多気郡明和町竹川５０３番地　☎0596－52－7031
発行年月日	西暦　１９９８年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
きたじょうはたけだいせき 北条畑田遺跡	みえけんすずかしひがししょう 三重県鈴鹿市東庄 ないちょうきたじょう 内町北条	242071	－	34° 54′ 45″	136° 28′ 15″	19970528～ 19970627	350	平成９年度県営畜産経営環境整備事業（鈴亀地区）
あちもとうえだいせき 安知本上田遺跡	みえけんかめやましあち 三重県亀山市安知 もとちょうあざうえだ 本町字上田	242101	－	34° 49′ 28″	136° 27′ 08″	19970506～ 19970527	600	平成９年度県営畜産経営環境整備事業（鈴亀地区）
そはらほりのうちいせき 曽原堀ノ内遺跡	みえけんいちしぐんみくも 三重県一志郡三雲 ちょうそはら 町曽原	244074	－	34° 37′ 22″	136° 30′ 42″	19971006～ 19971009	200	平成９年度広域営農団地農道整備事業（中勢３期地区）
はなのきいせき 花ノ木遺跡	みえけんたきぐんたき 三重県多気郡多気 ちょうまき 町牧	244414	441	34° 30′ 15″	136° 29′ 45″	19970821～ 19970822	135	平成９年度県営畜産経営環境整備事業（多気勢和地区）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
北条畑田遺跡	集落跡	鎌倉時代～室町時代	井戸・土坑・溝	山茶椀・山皿	
安知本上田遺跡	集落跡	鎌倉時代～室町時代	ピット	山茶椀・土師器鍋・縄文土器	
曽原堀ノ内遺跡	集落跡	平安時代～鎌倉時代	ピット・溝	土師器皿・鍋・ロクロ土師器・山茶椀	
花ノ木遺跡	散布地	縄文時代～中世	ピット・土坑	縄文土器・切目石錘・土師器皿	

平成10(1998)年3月に刊行されたものをもとに
平成19(2007)年8月にデジタル化しました。

三重県埋蔵文化財調査報告166－1

平成9年度土地改良事業にかかる埋蔵文化財発掘調査報告

北条畑田遺跡・安知本上田遺跡
曽原堀之内遺跡・花ノ木遺跡

1998年3月発行
編集発行　三重県埋蔵文化財センター
印　　刷　㈲第一プリント社